

埼玉県次世代自動車充電インフラ整備ビジョン

県全域の公共性の高い場所に計430基の充電器を整備予定。重点設置場所と目標数は道の駅38基、国道・主要県道及び高速道路IC周辺262基、大型商業・長時間滞在施設や公共施設118基、空白地域等12基。

国道17号沿いの3県連携整備を推進 “通勤や観光、高齢者移動など積極的なEV・PHVの活用”



3県連携で整備された充電設備の目印となる専用ステッカー



① 開館時間に利用できる充電器が2基ある道の駅・龍勢会館。屋上にソーラーパネルを設置し、ランニングコストを軽減。② 篠原駅で2014年2月まで実証実験中の「パーク＆ライド」。太陽光発電設備を備えた駐車場には、新しく蓄電池も追加整備された。③ 秩父市聖地公園では電動カート「モンパル」(ホンダ)を高齢者の移動手段に貸し出す実証実験を行って好評だ。



県 内に重要拠点を持つ本田技研工業の支援のもと、EV・PHV導入も急速充電器設置も順調に推移しているのが埼玉県だ。特に県内を南北に貫く幹線・国道17号沿いには公共交通施設やカーディーラーに充電拠点が多く、国道17号沿い62拠点のうち33カ所が埼玉県内に整備済み(群馬1カ所、新潟12カ所)。現在、既に日本海側へのEVライドが十分可能な状況にある。県全域の充電拠点網をより充実させる今年度の「埼玉県次世代自動車充電インフラ整備ビジョン」では、道の駅なども重点設置場所となっており、県内

19カ所ある道の駅すべてに急速充電器の整備を進めることとなつた。また、熊谷市籠原工リニアで実証実験中の「パーク＆ライド」では、太陽光発電＆蓄電池付きの駐車場を利用して自宅からEV車で乗りつけて電車出勤し、帰宅時までに再生エネルギーで充電される通勤スタイルが、県民参加の検証段階まで進行中だ。観光面では環境立市を目指す秩父市が注目だ。秩父駅前の急速充電器が年300回の利用頻度に達し、充電器のある道の駅も3カ所(龍勢会館、大涌温泉、あらかわ)に増加。こうした状況を受け低炭素型観光スタイルの「秩父レール&EV・PHVライド」実証実験も回を重ねて開催。さらに高齢者の多い中山間地として免許不要な電動カート「モンパル」(ホンダ)を地域住民の身近な足として利用してもらう実証実験も実施。地域特性に根ざしたEVモビリティ事業に前向きに取り組んでいる。

今後の展望	User Survey
VISION	利用者の視点
CO₂削減への多様な視点 自動車保有台数全国3位で首都隣接の埼玉県では、低炭素型のEV活用を積極的に模索。充電インフラも国道沿いを中心に、ショッピングセンター・公園など多様なシーンへの普及が今後図られていく予定だ。	地域特性に合うEV活用 低炭素型の通勤や観光、高齢者向け超小型モビリティなどの実証実験では、体験して初めてEVの便利さに気づく利用者が多い。特に秩父でのレール&ライドや、「モンパル」での墓参などが体験者に非常に好評。